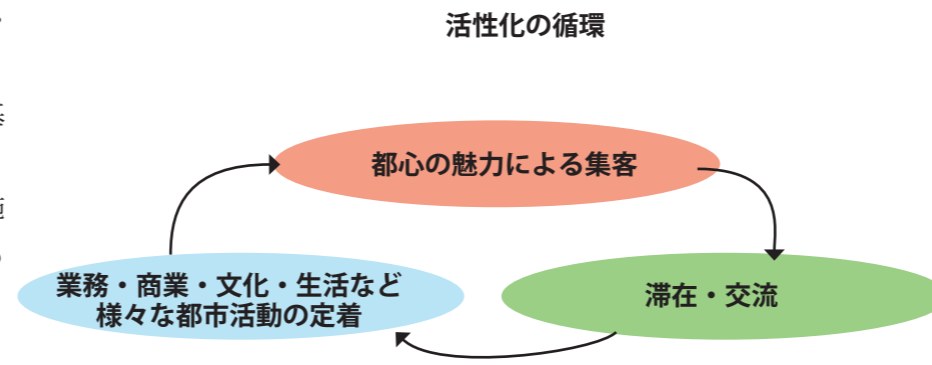


### 3-2. 4つの基本方針

「都心の魅力により人が集まり、人々の滞在・交流を増やしていくことで、業務・商業・文化・生活など様々な都市活動の定着を増やすという循環を創る」ことを目指します。

そこで、近年の施策目標等の整理を踏まえ、活性化の目標像として以下の4つの基本方針を設定します。

この基本方針は、この計画にかかわる多数の関係者で永く共有し、個々の戦略や施策の検討、調整、具体化、実施、そして評価するときには、これを照らすこととなる基本的な価値ともなるべきものです。



### 3-3. 基本方針実現に向けた12の戦略

4つの基本方針に基づき、分野別の課題に対応する12の戦略を定めます。これらの戦略に基づいた取組を推進していくことで、4つの基本方針を達成することを目指します。

12の戦略に基づく様々な取組のアイデアは、4章にて詳細に記載します。

また、4章の取組アイデアのうち、優先的に取り組むものについては5章にて詳細を記載します。

近年の施策目標等の整理

中心市街地活性化施策の発展  
横浜都心部各地区の連携強化

分野別の都心部関連計画・施策の強化と総合的展開

環境問題、安全・安心、福祉など市民意識の高い課題への対応

まちづくりの推進体制の構築

#### 4つの基本方針

**OLD & NEW 都心**

開国・開港150年の歴史の蓄積を活かしつつ、今後の発展の基礎となる新たな都心の構造を創り、これらが連携した市民が愛着と誇りを持てるOLD & NEW都心を創る。

**都市活力創造都心**

「ビジネスチャンスが生まれる街、起業の街」という開港以来の街の遺伝子を大切に、関内・関外で暮らし、働き、学び、創造し、楽しむなど、横浜の活力の原動力となる多彩で魅力的な機能がコンパクトに複合した、魅力溢れる都心を創る。

**快適環境都心**

港・河川・内水面や公園・街路などの公共空間や、公共・民間施設などにおける水と緑の豊かな環境の形成や地球温暖化への対応等を進めるとともに、防災・防犯など誰もが安全・安心に過ごすことのできる、調和の取れた都心を創る。

**協働・共創都心**

官民・産官学の多様な主体が協働・共創する場をつくり、業務・商業の活性化、各エリアの特性を活かした街なみ形成、従業者・居住者・来街者などの様々な活動のサポート、まちの魅力の発信などを行うエリアマネジメントを推進することで、持続的で活力のある都心を創る。

#### 分野別の主な課題

【都市構造】関内地区、関外地区、みなとみらい21地区、横浜駅周辺地区の連携を図るとともに、横浜都心部としての魅力を伸ばしていくことが求められています。

【業務】関内・関外地区は、従業者数の減少や空室率の増加が進んでいます。また、区内には、耐震性や設備に問題のある中小ビルが多く存在し、更新が求められています。

【商業】商業統計によると、平成9年から19年で商品販売額が、関内側で約4割、関外側で約5割、それぞれ減少しています。

【居住】住民基本台帳によると、平成11年から20年で居住者数が、関内側で約6千人、関外側で約1.3万人、それぞれ増加しています。

【都市デザイン】関内・関外地区で行われてきた都市デザインの取組みは地区のブランド力づくりに大きく貢献してきました。今後も都市デザインの取組みを進める必要があります。

【施設】老朽化した民間ビル及び公共施設が多く存在し、耐震性や設備などに問題があります。

【文化・芸術】芸術や文化の持つ「創造性」を生かして、都市の新しい価値や魅力を生み出す都市づくりを進めることが大切です。

【交通】関内・関外地区はこれまで歩行者ネットワークの充実などが図られてきましたが、今後は環境問題への対応や自転車の利活用などが求められています。

【観光】地区の歴史的資源や臨海部などの地域資源により、観光客が増加しています。今後は、内陸部の更なる地域資源の利活用促進や関内・関外地区のトータルプロモーションなどが必要です。

【環境】横浜市は「環境モデル都市」に指定されました。都心部においても、それにふさわしい街づくりが求められます。

【安全・安心】従業者、居住者、来街者等、様々な人々が安心して暮らし、活動できる、安全・安心のまちづくりを進める必要があります。

【地域のまちづくり】現状では、地域ごとにそれぞれ活動を進めていますが、地域間に差があり、また全体での連携が不十分な状況です。

#### 12の戦略

1. 関内地区・関外地区・みなとみらい21地区をつなぐ結節点を強化する

2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る

3. 起業家等への支援、既存の業務ビル群の再生等により、働く場としての活力創造都心を再構築する

4. 地域ブランド力を高め、路面型商店街の活性化を図る

5. 関内・関外地区ならではの居住スタイルを創出する

6. 公共空間や歴史資産等の利活用により、開港都市横浜ならではの都市の魅力を創る

7. 文化・芸術・教育・スポーツ等の文化芸術創造活動を集積する

8. 人と環境にやさしい便利な交通・移動環境を創る

9. 自然を活かし環境負荷の少ない都心を創る

10. 関内・関外地区の魅力を活かし、都心観光機能を強化する

11. 安全・安心なまちづくりを進める

12. 各地区の地域特性に合わせたエリアマネジメントを推進する

0 本計画の構成  
1 策定に当たって  
2 関内・関外地区の現状等の把握分析  
3 基本方針（活性化の目標像）  
4 12の戦略と取組アイデア  
5 優先的取組の視点  
6 新市庁舎整備の考え方

### 3-4. 関内・関外地区活性化基本方針図

ここでは、関内・関外地区の都市の骨格となる、軸、ネットワーク、結節点を示しています。

軸は、関内・関外地区における都市構造の中心となる空間であり、ネットワークは、地区内の各界隈を結ぶものです。

また、結節点は、軸やネットワークの交差する場所、各界隈が接する場所、鉄道駅周辺など、人々が行き交い、交流する場となります。その中でも特に、北仲地区と港町周辺は、関内地区とみなとみらい21地区、関内・関外地区を結ぶ結節点として重要です。

**北仲結節点**

- ・関内地区とみなとみらい21地区の結節点となる
- ・大岡川内水面を囲み、関内地区、みなとみらい21地区、新港地区が一体となった魅力ある都市空間づくり

**港町結節点**

- ・関内・関外地区の結節点となる
- ・開港シンボル軸と大通り公園軸をつなぐ結節点となるような、魅力ある都市空間づくり

**ウォーターフロント軸**

- ・山下公園から大岡川内水面までの約2kmを、海側からの顔となるように、良好な水辺空間を演出し、魅力ある都市空間をつくる

**開港シンボル軸**

- ・大さん橋、象の鼻パーク、日本大通り、横浜公園など、開港都市横浜のシンボル空間として演出するとともに、周辺との関係を強化する

**大通り公園軸**

- ・JR関内駅から阪東橋駅まで続く、緑豊かな大通り公園を、様々な都市活動が行われる、関外地区の骨格として再生する

**河川軸**

- ・関内・関外地区を囲む、大岡川・中村川を軸として、都市に安らぎやうおいを与える良好な水辺空間を創出し、街から港への連続性を確保する

**賑わいのネットワーク**

- ・様々な用途・機能が複合した個性的で魅力的な界隈が集積している関内・関外地区において、地区ごとの個性を強化し、有機的に結びつけ、回遊性を高める

